

1978年——東京 小平に障害のある子どもの放課後を支援する活動が生まれた。

どこまでも
君と一緒にだよ

「ショージとタカオ」
井手洋子監督作品

ゆるゆけ 子どもクラブ!



ゆっくり育つ子どもたち、じっくり向き合う大人たち。カメラが寄り添う子どもたちの時間。

企画：「ゆるゆけ子どもクラブ!」上映実行委員会 監督・製作：井手洋子 撮影：中井正義/井手洋子 編集：大川景子 整音：遠藤春雄 音楽：芳賀一之 題字：永野徹子 宣伝美術：成瀬慧
協力：小林光/福山啓子/Everly/あがた・せいじ/森由己/ゆるゆけ子どもクラブ/ゆるゆけ第2子どもクラブ
ゆるゆけ第3子どもクラブ/ゆるゆけ子どもクラブ父母会 www.yuyake-kodomo-club.com/



配給：井手商店映画部+ピカフィルム 2019年|日本|カラー|DCP|112分

「放課後活動は、あらかじめ決められた範囲内のことをやっているのじゃなくて、場合によっては遥か彼方まで子どもと一緒に飛んでいくつもりで…」

—— 村岡真治

(ゆうやけ子どもクラブ 代表)

ゆうやけ
子どもクラブ!

—— 外に出て、風を感じて、花の匂いや寒さ、暑さ、五感で自然を感じている子どもたちの姿が心に残る

—— いろとりどりの個性に、こんなにもあたたかく寄り添ってくれる場所は、現代社会にはなかなかない

(一般試写会の感想より)

子どもたちを理解するための、大切な場所がここにある。

東京都小平市にあるゆうやけ子どもクラブは、今から40年以上前の1978年に、障害のある子どもに、放課後や夏休みに子どもの活動場所が欲しいという親の切実な願いで誕生した。全国でも放課後活動の草分け的な存在だ。

ゆうやけでは、小学生から高校生までの子どもたちが共に放課後を過ごす。知的障害、発達障害、自閉症など、障害はさまざまだが、遊びや生活を通して、子どもたちの内面に迫る活動を創り上げてきた。

カメラは、クラブに通う子どもたちに寄り添う。自分の気持ちやうまく表現できないガク君。積み木に夢中になって子どもたちの輪になかなか入ることができないヒカリ君。音に敏感すぎるカンちゃんは、ずっと給湯室にこもっている。スタッフは子どもたちを全身で受け止める。カメラは、そんな彼らが時間をかけてゆっくりと変っていく姿を追いかける…。

子どもたちにとって大切なことは何か。映画は、ゆうやけ子どもクラブでの子どもたちの時間を描き、問いかける。

放課後等デイサービスとは?

2012年に、障害のある子どもの放課後や夏休みなどの生活を支えるために「放課後等デイサービス」という、国の制度ができた(児童福祉法にもとづく)。国会請願(2008年。署名11万8千筆)が採択されるなど、全国の関係者の願いが実ったもの。現在、事業所数1万3千か所、利用者数は20万人に達している。ただし、制度の仕組みの不十分さもあり、「利潤を追求し、支援の質の低い事業所が増えている」(2017年、財政制度審議会資料)などの問題もある。



企画:「ゆうやけ子どもクラブ!」上映実行委員会 製作:井手商店映画部 配給:井手商店映画部・ピカフィルム
お問合せ:03(6383)4472/080(3483)3811/idesho@gmail.com/pica-i@jcom.home.ne.jp

f ドキュメンタリー映画ゆうやけ子どもクラブ!

www.yuyake-kodomo-club.com

11/16(土)よりロードショー / 12/6(金)まで

★初日監督舞台挨拶 / ★11/17@村岡真治さん(ゆうやけ子どもクラブ 代表)挨拶の予定
★期間中ゲストトークも開催予定。詳細は劇場または公式HPでお知らせします。

全国共通特別鑑賞券 ¥1,300 発売中

当日一般 ¥1,800 / 大・専・シニア ¥1,200
高・中・障害者 ¥1,000 / 小 ¥700

JR総武線・都営地下鉄大江戸線東中野駅より徒歩1分

ポレポレ東中野

03(3371)0088 www.mmjp.or.jp/pole2/

連日12:00~(一回上映)

